

JIS

コンクリート用フライアッシュ

JIS A 6201 : 2024

(日本フライアッシュ協会/JSA)

令和 6 年 11 月 20 日 改正

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本産業標準調査会標準第一部会 土木技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	久田 真	東北大学
(委員)	石田 知子	株式会社大林組
	鹿毛 忠継	国立研究開発法人建築研究所
	加藤 佳孝	公益社団法人日本コンクリート工学会 (東京理科大学)
	鎌田 敏郎	公益社団法人土木学会 (大阪大学)
	草野 昌夫	全国生コンクリート工業組合連合会
	古賀 裕久	国立研究開発法人土木研究所
	鈴木 澄江	工学院大学
	野口 貴文	一般社団法人日本建築学会 (東京大学)
	前田 敏也	一般社団法人日本建設業連合会 (清水建設株式会社)
	宮田 喜壽	防衛大学校
	丸山 慶一郎	一般財団法人建材試験センター
	水田 真紀	国立研究開発法人理化学研究所
	柳田 直	特定非営利活動法人コンクリート製品 JIS 協議会 (株式会社日東)
	山中 信彦	公益社団法人地盤工学会 (基礎地盤コンサルタンツ株式会社)
	吉田 雅彦	一般社団法人セメント協会

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：昭和 33.3.3 改正：令和 6.11.20

官 報 掲 載 日：令和 6.11.20

原 案 作 成 者：日本フライアッシュ協会

(〒108-0023 東京都港区芝浦 3-6-10 田町サンハイツ TEL 03-3454-4542)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-11-28 三田 Avanti TEL 050-1742-6017)

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第一部会 (部会長 松橋 隆治)

審議専門委員会：土木技術専門委員会 (委員長 久田 真)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省イノベーション・環境局 国際標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	2
4 種類	4
5 品質	4
6 品質の均一性	4
7 試料	5
8 試験方法	5
8.1 二酸化けい素含有量	5
8.2 湿分	6
8.3 強熱減量	6
8.4 密度	6
8.5 粉末度	7
8.6 フロー値比	8
8.7 活性度	8
9 検査	8
10 包装	8
11 表示	9
12 報告	9
附属書 JA (規定) フライアッシュの二酸化けい素含有量の蛍光 X 線分析方法	10
附属書 JB (規定) 蛍光 X 線強度のドリフト補正	21
附属書 JC (参考) 蛍光 X 線分析における各種補正を適用する場合の補正方法	23
附属書 JD (規定) 45 μm ふるい残分試験方法 (網ふるい方法)	24
附属書 JE (規定) フライアッシュのモルタルによるフロー値比及び活性度指数の試験方法	26
附属書 JF (規定) ポゾラン活性評価指数 (API) の試験方法	29
附属書 JG (参考) JIS と対応国際規格との対比表	32
附属書 JH (参考) 技術上重要な改正に関する新旧対照表	36
解 説	38

まえがき

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 12 条第 1 項の規定に基づき、日本フライアッシュ協会及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS A 6201:2015** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

コンクリート用フライアッシュ

Fly ash for use in concrete

序文

この規格は、1958年に制定され、その後6回の改正を経て今日に至っている。前回の改正は2015年に行われた。その後、ボゾラン活性評価指数を評価する手法が開発されたため、今回の改正に至った。

この規格は、2020年に第1版として発行されたISO 22904のうち、フライアッシュに対応する箇所を基とし、国内の活用状況に整合させるため、技術的内容を変更して作成した日本産業規格である。

なお、この規格で、附属書JA～附属書JFは、対応国際規格にはない事項である。また、側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。技術的差異の一覧表にその説明を付けて、附属書JGに示す。技術上重要な改正に関する新旧対照表を、附属書JHに示す。

1 適用範囲

この規格は、コンクリート又はモルタルに混和材料として用いるフライアッシュ（以下、フライアッシュという。）について規定する。

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 22904:2020, Additions for concrete (MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、ISO/IEC Guide 21-1に基づき、“修正している”ことを示す。

2 引用規格

次に掲げる引用規格は、この規格に引用されることによって、その一部又は全部がこの規格の要求事項を構成している。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS A 0203 コンクリート用語

JIS H 6201 化学分析用白金及び白金合金器具

JIS K 0102-3 工業用水・工場排水試験方法－第3部：金属

注記 対応国際規格における引用規格：ISO 1188, Water quality－Determination of selected elements by inductively coupled plasma optical emission spectrometry (ICP-OES)

JIS K 0116 発光分光分析通則

JIS K 0119 蛍光X線分析通則

JIS K 0121 原子吸光分析通則

JIS K 0557 用水・排水の試験に用いる水

JIS K 0970 ピストン式ピペット